新編武藏國風土記稿 荏原郡

巻之五十三

和書門 類
一六五一〇 號
二二三 函
二一 架
二五五 冊

内閣文庫
和書 類
一六五一〇 號
二五五 冊
七三函一八 架

内閣文庫
番號 和 16510
冊數 255(54)
函號 173 210

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

新編武藏風土記卷之五十三目録

荏原郡之十五

品川領

大井村

上蛇窪村

下蛇窪村

戸越村

桐ヶ谷村

居木橋村

日本政府圖書
淺草文庫

上大崎村
下大崎村
二日五日市村

新編武蔵風土記巻之五十三

荏原郡之十五

品川領

品川領ハ。郡ノ東ノ方。海ニソヒシ所ナリ。コレモ御打入ノ後ニ定メラレシ領名ナルベシ。領中南北品川ハ。海道ノ宿驛ナレバ。領名モカクナヅケシナルベシ。ソノ地。東ハ海岸ニ至リ。南ノ方六郷領ニツヅキ。西ハスベテ馬込領ニ隣リ。北ノ方ハ麻布領ナリ。南北ハ一里ニアマリ。東西ハソノ境屈曲シテ。町

數モワカチガタケレド。ヒロキ所ニテ三十町バカリ。狹キ所ニテハ七八町ニ過ズ。村數十三。皆郷庄ノ唱ヲ失ヘリ。

大井村(オホヰ)

大井村ハ。品川宿ノ南ニアリ。地名ノ起リシ故ヲ尋ルニ。村内光福寺境内ニアル古井ハ。建仁元年ニ穿シ所ニシテ。土人コレヲ大井ト呼シヨリ。イツトナク地名トナリシト云傳ヘリ。猶寺院ノ條ニ詳ナリ。永久記等ノ書ニ。大井次郎品川太郎ナド見ユルハ。コノ處ノ住人ニテ。地名ヲ氏トセシナラン。今郷庄ノ唱ヲ失セリ。中古ハ此邊ヲスベテ大井郷ト號セシニヤ。貞治五年室町家ノ文書ニ。荏原郡大井郷不

入讀村トアリ。又鹿嶋社寛正四年ノ鰐口ニモ。荏原郡大井郷ト彫ル。サレド其ノ村ト云ヘキヲ。其ノ郷ト記セシコトハ。ソノ例佟アレバ。コノ鰐口ノ文ノミニテハ證トスルニタラザレド。文書ニ記ス所ハ。タヾチニ大井郷不入讀村トアレバ。郷名ナリシコトハ明ナリ。依テ按ズルニ。當所ノ開ケシハ尤古キ世ノコトナルベシ。不入讀村ハ今ノ不入斗村ニテ。當村ニ接スル地ナリ。彼地ニイマス鈴森八幡ハ。神名帳ニ載セタル盤井神社ニシテ。其村内ハ彼社ノ神田不入ノ地ナリシト云。又北隣新井宿村ハ。往古東海道往還ノ係ル所ニシテ。和名抄ニ驛家トアル是ナリト云リ。サレバ此二村往古ヨリ開ケシコト論ナシ。當村其間ニ挾マリテ。其廣サ二十町ニ過ザレバ。コヽモ又延喜已前ヨリモ開ケシ地ナルニヤ。シカノミナラズ。村内光福寺ハ古寺ニシテ。建仁以前ノ古刹ナリト云ヘバ。村ノ開闢古キコトノ一證トスベシ。今ノ俗ヲモテ推スニ。宿驛ニ近キ所ハ。土地モ自ヅカラ賑ハヘルハ。勢ナリ。然ルニ當所カタノ如ク驛家ニ接シタレバ。古ノ開ケシトイハンモ誣ベカラザルニ似タリ。又小田原役帳ヲ閲ルニ。梶

原日向守ガ知行新井宿ハ。宿ノ役アルヲ以。他ノ諸役ヲ除ケルヨシ見エタレバ。永禄ノ頃マデモ。昔ノ如ク宿驛ハアリシナリ。其後何ノ頃ニカ海道ヲ今ノ地ヘ移サレ。海邊ニツヒテ當村ノ内ヘモ十九町程係レリ。又池上道ト云往来アリ。今ノ海道ヨリハ西ニ當リテ。品川宿ヨリ北村ヘ係リ。南ノ方新井宿村ニ入ル。是ハ池上本門寺ノ前ヨリ。平間ノ渡ヘ達スル道ナリ。或ハ云。是古海道ノ跡ニテ。僅ニ其形残レルナリト。今當村ノ四隣。東ハ海岸ニツヒ。西ハ馬込及ビ上下蛇窪ノ三村ニ隣リ。北ハ品川宿ニ接シ。

南ハ不入斗。新井宿ノ二村ナリ。東西二十町南北十八町。西ノ方ニ岡アリ。大低水陸ノ田相半セリ。土人ノ傳ニ據ハ。昔當所ノ地頭ニ長谷川豊前守ト云人アリ。此人天正八年ノ頃検地セシガ。其縄イト厳密ナリシカバ。阡陌ヲ開クトシモアクデ。許多ノ畝歩ヲ打出セシニヨリ。村民等貢税ノ重キニ堪ズ。今ニ至ルマデ村夫野老暴虐ノ事ヲ語レバ。動モスレバ長谷川縄ト称シテ無道ノ譬ヘトセリトゾ。此長谷川ハ。北條家ノ侍ナルベケレド。世ニ聞エザル人ナリ。分限帳ニ長谷川弥五郎ナド云人アレバ。彼等ガ

一族ナドニヤ。又傳ヘニ。其頃ハ戸數僅十六軒アリテ。貢米モ今ニ比スレバ半ニモ及バサリシト。土地ノイマダ盛ナラザルコト知ルベシ。又彼十六人ガ子孫ヲ十六苗ノ古百姓ト称シテ。今モ残レリ。サレド其子孫村内ニ蔓延シ。又外ヨリ来リ移リシモノ年々多クシテ。今ハ家數五百六十二軒。税務モ古ヘニ倍セリ。又小田原役帳ニノセタル。江戸太井五十六貫五百六十文川村跡ト云モ。此地ノコトナリ。御入國ノ後御料所ニテ。伊奈半十郎預リ奉リテ。子孫世々支配セシガ。寛政年中ヨリ大貫次右衛門光豊ガ支配所トナレリ。検地ハ寛永二十一年伊奈半十郎。元禄八年織田越前守糺シ。新墾ノ地ハ享保十七年筧播磨守検地セリ。コノ餘寛文十三年延寶二年ノ二度ニ。當村ノミ検地アリシト云。當村内ニハ松平薩摩守松平土佐守間部若狭守等ノ下屋鋪アリ。是ハ後年賜ヒシモノナリ。

高札場　村ノ中程。池上道ニアリ。

小名

御林町　村ノ東北ノ方。南品川海晏寺門前ニ續ケリ。長六町餘昔御林アリシ處

ナレハ名トセリ。今ハ猟師多ク住ス。則當所ハ八浦ノ一ナリ。八浦ノコトハ南品川猟師町ニ辨ス。又此町ノ西裏モ。昔ハ御林ナリシカ。何ノ頃カ新田トナリシヲ。明和年中伊奈備前守撿地シテ租税ノ數ヲ定ム。ソコハ御林跡ト唱ヘリ。

濱川町　御林町ノ續キナリ。是モ長六町餘ノ町ナリ。町ノ中程ヲ濱川流ルヽユヘ名トセリ。

三十軒家　濱川町ノ内ニテ。南ノ方ヘ少シ隔リタル町ナリ。家數三十軒餘アル處ナレバ名トセリ。

喰違跡　三十軒家ノ内ニアル唱ヘナリ。往古宿ヘノ入口ナレバ。喰違ノ土手アリシ故ノ名ナリ。

織多町　御林町ノ西ナリ。織多ノモノ五十九軒住セル所ナリ。此織多古ヘハ南品川品川寺ノ邊ニ住居セシガ。承應元年此地ヘ移サル。其後元禄八年撿地アリシ時。織多町ノ分壹町二畝二十九歩。

除地ニセクレシト云。此町ニ白山権現ノ祠アリ。祭禮毎年九月十九日。南品川宿本覺寺持。

上芝(カミシバ)下芝(シモシバ)　織多町ノ南方田圃ナリ。東寄ヲ下芝ト云。西寄ヲ上芝ト唱フ。コハ古此邊ノ浦ヲ竹芝ト呼シ名残ナリト云。詳ナルコトハ。南品川ノ條ニ見エタリ。

品川原(シナガハハラ)　村ノ北方。南品川宿ノ境。田圃ノ間ヲ云。古ハ品川ノ民コヽニ居リシ故。名トセシトモイヘト。全ク當村ノ内ニアレバ。大井原トモ呼ヨシ土人云ヘリ。享保年中ヨリ　御放鷹ノ地トナレリ。コノ邊雲雀ノ聲佗境ニ勝レタレバ。大井雲雀トテ人々賞セリ。

本村(ホンムラ)　村ノ中程ヲ云。此村開闢ノ始ハ。民家多クコヽニアリテ。村ノ本ナレバ名トセリ。或ハ中居トモ云ヨシ。是モ本村ノ意ナルベシ。

出石(イツルイシ)　村ノ西南馬込村境ヲイフ。イカナルユヘニコノ唱アリヤ詳ニセズ。

狐窪(キツネクボ) 村ノ西。上蛇窪村ノ境ヲ云。
大塚(オホツカ) 同ジアタリヲ云。此邊ニ塚アルユヘ總テ名トセリ。
金子(カネコ) 金子原(ハラ) 同ジアタリサシ南ノ方ヲ云。昔金子某ト云。富豪ノモノアリシユヘ名トセリト。

山川

林九十一ヶ所 何レモ僅バカリノ林ナリ。松杉及雜木ヲ植ユ。
立會川(タチアヒ) 村ノ中程ヲ流ル。西ノ方下蛇窪村ヨリ入リ。村内三十町餘ヲ流レ。東ノ方海ニ沃ク。ソコハ濱川トモ呼リ。濱邊ナレバ此唱アリ。川幅六間或ハ八間ニ至ル。昔上杉北條戦争ノ頃。此地ニテ合戦アリシユヘ。立會ノ名起レリト。按ルニ大永年中品川ノ前。高縄ノ原ニテ。上杉朝興ノ兵ト北條氏綱ノ勢。挑合セシコト小田原記等ノ書ニ見エタリ。土人ノ傳フル所ハ。是等ヲサシテイヘルカ。或云鎌倉右大將家ノ頃。朝比奈義秀等劔術ヲ學ビシ處ナレバ。太刀合トイヒシヲ。後ニ今ノ文字ニ書替シト。是ハ尤ウケガタキ説ナリ。又云昔此

處ニ市立テ。野菜ヲ賣買セシニ。人々ツドヒテ互ヒニ會合セシ地ナレバ。立會ノ名ハ起リシト。カク種々ノ浮説ノミニテ。皆證跡モナケレバ。ウケガタキコトナリ。此川ノ水元ハ。碑文谷小山中延等。所々ノ悪水落合テ一流トナリ。中延村ノ内小名瀧間トイフ地ヲ歴テ。蛇窪村ニ至リ。ソレヨリ當村ニ入ルトイヘリ。是ニヨレバ其始ハ瀧間川ト唱ヘシヲ。後ニ誤リ唱ヘテ。タチアヒ川ト稱セシニアラズヤ。今土人ニ問ヘバ。タツチ川ナド答フルモアリ。モシ然ラバ今中延村ニテ。川ノ名ナキハ。其唱ヲ失セシナラン。サレド此考モサセル證アルニアラザレバ。牽強ニ渉ルコトハ知ルベカラズ。

原野

野　所々ニアリ。萱蘆生茂レリ。合セテ一町餘ノ地ナリ。コノ外芝原藪等所々ニアリ。

橋梁

濱川橋　村ノ東方。濱川ニ架ス。長八間幅三間。

水利

品川用水　西ノ方蛇窪村ヨリ入ル。所々ノ水田ニ

汰ギ。末ハ南品川ニ入ル。

倉廩

郷倉二ヶ所一ハ村内里正。五藏ノ宅地ニアリ。一モソノホトリニアリ。

屋鋪

松平薩摩守抱屋鋪 村ノ東北。御林町ノ後。同入下屋鋪續ニアリ。六町一段五畝十八歩。萬治三年ヨリ抱屋鋪トス。

松平土佐守抱屋鋪 村ノ東。濱川町ノ内。同入下屋鋪ノ續ニアリ。二段八畝二十九歩ノ地ナリ。萬治元年ヨリ抱屋鋪トナセリ。

神社

鹿嶋社 除地二段四畝 村ノ南方ニアリ。當村ノ鎮守ナリ。相傳フ安和二年ノ頃。常陸國鹿嶋郡ノ鹿嶋明神ヲ勧請セリト。本社九尺四方。拝殿七間ニ六間半。前ニ石ノ鳥居アリ。柱間九尺許。拝殿ノ西北ニ二間ニ二間半ノ神樂堂アリ。豊歳ヲ祈ンガタメ。毎年六月中村民コゾリテ神樂ヲ奏ス。九月十五日ニモ神事アリト云。

末社

稲荷社
辨天社 共ニ本社ノ側ニアリ。
別當常林寺 除地二段十六歩 社地ノ北ニ續ケリ。天台
宗ニテ。郡中南品川宿常行寺末。爾現山來迎院
ト號ス。寺傳ニ云。當寺ノ本尊藥師ハ。慈覺大師
ノ彫刻ナリ。開山法印尊榮。大師ノ命ヲ受テ此
所ニ鹿嶋社ヲ創立シ。又精舍ヲモ建立シ。此像
ヲ安置セリ。後星霜ヲヘテ。貞和三年了覺法印
ト云沙門。當寺ヲ中興シテ。堂舎モ壯麗ナリシ
トゾ。天正ノ末年ヨリ此邊ニテ御放鷹ナド

アリシ時ハ。屢當寺ヘ渡ラセタマヒシガ。正保
二年別ニ境内ノ地ヘ御茶屋ヲ建ラル。
大猷院殿ノ御時。本尊藥師ノ傳來ヲ尋子サセ
ラレシカバ。時ノ住僧其由來ヲ申上シヨリ後
ハ。永ク御祈禱所トナレリ。 御歳四十二。御厄
歳ニ當山ノ御殿ハ惠方ナレバトテ。節分ノ
日渡御マシマシテ。御祈禱ヲ命セラル。又一年
此御茶屋ニテ堀田加賀守御茶ヲ奉リシコト
アリシト云。其後何ノ頃ニヤ御茶屋破損ニ及
ビシカバ。其侭廢セラレシナリ。今ハ其跡ニ鹿

嶋ノ本地佛十一面観音ノ堂ヲ建置リ。又去貞享ノ頃連年旱魃アリシガ。時ノ住僧榮往法印。村内九頭龍権現ノ社地ナル。押ノ清水ト云ヲ加持水トナシ。當社ニ於テ祈雨ノ神事ヲ行ヒシニ。忽好雨降テ其年豊ナリシトナリ。今モコノ遺例ニヨリテ。毎年六月中旬法楽ノ神事アリ。客殿七間ニ六間半。南ニ向フ。

寺寶

不動尊画像　一幅

智證大師ノ筆ト云。

古鰐口　一口

其圖左ニノス。

観音堂　此所ハ御茶屋ノアリシ處ナリ。本尊十一面観世音ヲ安置セリ。

九頭龍権現社　年貢地　村ノ中程ニアリ。祭禮毎年四月十五日。及ビ七月五日神酒ヲ供フ。常林寺ノ持。此社ノ側ニ年フリタル梛樹アリテ。ツノ本ニ古井アリ。梛ノ清水ト唱フ。旱打續キシ時モ涸ルルコトナシト云。

八幡社　除地九十坪　小名御林町ニアリ。鎮座ノ年代ハ傳ヘザレドモ。當村開闢以来ノ神社トイヘバ。古社ナルベシ。御林町ノ持ニテ。祭年ニハ八月十五日神輿ヲ渡セリ。又毎歳五月中。神楽湯立等ノ神事ヲ行ヘリ。村内常林寺ノ西寺ヨリ隔年ニコレヲ司レリ。入口ニ柱間二間ホドノ石ノ鳥居ヲ建。本社ハ宮造ニテ六尺四方。前ニ拝殿アリ。三間ニ二間東ニ向フ。

末社

辨天社　本社ノ南ノ方。小池ノ中ニアリ。前ニ木ノ鳥居ヲタツ。

稲荷社　本社ノ北ニアリ。

神明社　除地一段十二歩　小名濱川町ニアリ。此所ノ鎮守

ナリ。社二間ニ九尺。當社モ村ノ開闢ヨリノ神社ト云ノミニシテ。其年代ヲ傳ヘズ。祭禮毎年九月十六日神樂ヲ奏ス。村内来福寺持。下五社持皆同ジ。

末社

稲荷社

天神社

疱瘡神社

辨天社

右何レモ本社ノ側ニアリ。共ニ小祠ナリ。

荒神社 除地四畝六歩 村ノ西方ニアリ。

藏王權現社 除地八畝十歩 村ノ北ノ方ニアリ。祭禮毎年九月三日。神酒ヲ供ス。コノ社アルニヨリ。此アタリヲ權現臺ト呼ベリ。

稲荷社 除地七畝十歩 村ノ西ノ方ニアリ。土人コノ地ヲ稲荷森ト呼ベリ。

瀧王子權現社 除地五畝五歩 村ノ中程ニアリ。相殿ニ稲荷ヲ配祀ス。土人瀧氏ノ稲荷ト稱スルヨシナレドモ。ソノ来由ヲ詳ニセズ。是モ瀧王子稲荷トヨビシヲ。誤リ来レルニヤ。

諏訪社 除地四畝十八歩 小名濱川町ニアリ。祭禮毎年六
月二日。

稲荷社 年貢地 コレモ小名濱川町ニアリ。百姓ノ
持。

寺院

西光寺 除地二段二十五歩 村ノ中央ニアリ。浄土真宗。江戸
麻布善福寺ノ末ナリ。榮松山ト號ス。古ハ天台宗
ニテ。弘安九年榮順法師ノ開基ナリシガ。其後何
ノ項ニヤ改メテ。今ノ宗トナレリ。慶長年中榮空
沙門中興ス。榮空ノコトハ後ニ見エタリ。客殿六
間半ニ六間。本尊阿彌陀如來ヲ安ス。客殿ノ前ニ
児櫻。醍醐櫻ノ二株アリ。尤古木ナリ。

寺寶

聖徳太子木像 一軀
太子十六歳ノ像ト云。杉ノ丸木ニテ刻ミ。長
八寸許。

六地藏木像 各軀
小野篁ノ作。各長三寸餘ノ立像。

藥師木像 一軀
弘法大師ノ作。長二寸許。以上天台宗ノ項客

殿ニ安置セシ像ト云。

六字名號　二幅

一ハ顕如上人。一ハ蓮如上人ノ筆。

系圖　一巻

當寺中興開山。榮空ノ系圖ナリ。其譜ノ大畧ニ云。榮空沙門。俗稱ハ芳賀出雲守定仲ト云。織田信長ノ麾下ナリ。信長死後比叡山延暦寺ヘ隠レ。法徳坊ヲ師トシテ。剃髪染衣ノスガタトナリ。三年ヲ歴テ東都ヘ下リ。ヤガテ當寺ノ住職トナレリ。定仲ノ父ハ下野國司芳賀豊澄ノ後裔。右近久定明ト云。後ニ入道シテ玄覚ト稱ス。武田信玄ノ甥ニテ。屢戦功アリシ人ト云。信玄ヨリ賜ハリシ感状。及ビ陣羽織。

東照宮ノ御教書等ヲ傳ヘテ。今モ寺寳トナセリ。系圖ノ末ニ左ノ數行ヲ記シアリ。

抑當家者。累代不絶而世顯鮮乎。然若宮明
使武田信玄。軍功有之人也。仍之為定仲使當

家之御事。信長公依為御尋。定家方有之

巻入上覧。則写之贈定仲者也。

天正十年正月十五日

楠河内守正虎

入道長庵

芳賀累代系圖長庵擬處不可怪者也

文禄元年五月十一日

秀次

御教書　一通

東照宮芳賀玄覚エ賜ハリシ御書ナリ。其文左ノ如シ。

大納言殿御下向之由被知也

和別彼之事之有。定家又被

数々。廿八日　家康

其刻但雨之。猶可申下
候也。恐々謹言。
六月晦　御諱　御判
芳賀元覚房

感状　一通
武田信玄ヨリ玄覚エ與ヘシ感状ナリ。其文
左ノ如シ。
今度在城合戦之時。
自身依蒙痛手。一日
之内敵首十三。同甲首七。

討捕。勝利之段至
感悦候。并忠節無
比類候。至子孫可申
傳者也。謹言。

九月十九日

信濃守
晴信

内々於陣中入候長刀進之候。
度々以勝利深重感入候
有。子孫之所傳可有之候。
ふて。

陣羽織　一領

武田信玄ノ陣羽織ナリ。唐織。茶地青黄紅ノ色絲ヲモテ惣躰ヘ丸キ形ヲ織リ。ソノ内ヘ鳥及ビ家ニ木立ナトノ文アリ。羽織ノ製ハ袖ナシニシテ。尋常ノ陣羽織ナリ。長二尺二寸餘。幅一尺五寸許。

地藏堂　二間半ニ二間。境内ニアリ。

貴布祢社蹟　門ヲ入テ左ノ方藪ノ中ニアリ。南品川宿ニアル貴船神社ハ。往古此地ニアリシト云。

光福寺　除地三段一畝十五歩　村ノ中程ニアリ。浄土真宗ニテ東本願寺ノ末ナリ。大井山ト號ス。當寺モ古ハ天台宗ニテ。此村開ケシ頃ヨリノ梵刹ナリ。後故アリテ浄土真宗トナレリ。其後文永二年了海上人再興アリシニヨリ。今モ此人ヲ中興ノ開山トナセリ。寺傳ニ云。了海ノ父ハ。

鳥羽院ノ皇胤。信光ノ嫡男ニテ。頭中将光政トイヘリ。和泉ノ刺史ニ任ス。母ハ滋野井宰相ノ女ナリ。光政故アリテ東國ヘ配流セラレテ民間ニ下レリ。サレド常ニ一子ノ無ヲ嘆キケル故。或時齋

シテ藏王権現ヘ祈誓セシガ。或ル夜ノ夢ニ。天ヨリ星下リテ母ノ胎ニ入レリ。夢覺シ後。了海ヲ妊ミタレバ。コレ藏王ノ奇特ナリトテ。宮社ヲ造リテ是ヲ鎮座ス。今品川原ニアル権現ノ祠是ナリ。又其頃當寺ノ住持覺圓律師ノ夢ニ。聖徳太子枕上ニ現ジテ曰。光政ノ子ハ即チ藏王ノ化身ナリ。汝冝ク新ニ井ヲ穿チテ。産湯ノ水ニスヽムベシト。由テ境内松樹ノ下ニ井ヲ堀ルニ。人力ヲ借スシテ清泉涌出シテ井トナル。時ニ建仁元年六月十五日男子誕生アリ。彼水ヲ汲テ産湯トナシ。童名ヲ松丸ト名付リ。此井靈井ナルニヨリテ。大井山ト號シ。村ヲモ大井ト名付リ。松丸八歳ノ時覺圓ニ從テ剃染シ。了海ト號ス。又叡山ニ登リテ浄業僧都ヲ師トセシガ。其後故アリテ親鸞ノ弟子トナリ。再ビ故郷ヘ帰リテ當寺ヲ中興セシガ。此頃父光政モ剃染シテ空範ト改メシニヨリ。是ヲ當寺ニ止メ置。已ハ更ニ麻布ノ善福寺ヲ草創シテ。其地ヘ移リ。德治元年十一月六日示寂セリ。客殿七間四方。本尊阿彌陀如來ヲ安ス。

寺寶

六字名號　一幅

鞍　一具

鐙　一雙

右ノ武器ハ。光政所持ノヨシ傳フレドモ。オボツカナシ。

太子堂　客殿ニ向ヒ左ノ方ニアリ。二間四方。傳教大師ノ作。長五尺許ノ木像ヲ安ス。

大井跡　客殿ノ北ノ方山腹ニアリ。横ニ深キ穴ナリ。或書ニ云。コノ井ハ大ナル穴ニテ。臨ムモノ目クルメクトアリ。今ハウヅモレテ穴ノ径六七尺モアルベシ。土人ノ傳ニ。コノ穴ヨリ涌出ル水ハ。大旱トイヘドモツクルコトナシトイヘリ。

來福寺　境内除地四段一畝十八歩　村ノ東北ニアリ。新義真言宗。同郡馬込村八幡宮別當長遠寺ノ末ナリ。海賞山地藏院ト號ス。正曆元年智辨阿闍梨ノ草創ト云。客殿七間ニ六間。本尊ハ弘法大師ノ彫刻ニテ。延命經讀地藏ト云ヘリ。寺傳ニヨレバ。此像ハ鎌倉權五郎景政ノ守佛ナリシガ。數傳ノ後梶原景季ニ傳ハリ。終ニ當寺ヘ納タリトイヘド。證トナ

スベキモノモアラサレバ。ウケガヒガタシ。

天神社　門ヲ入テ右ノ方。小高キ處ニアリ。

梶原塚　境内北ノ方ニアリ。景季ノ墳ト云。按ニ此邊梶原景時父子ノ舊蹟ト云モノ多シ。巳ニ馬込村ノ條ニモ記セシ如ク。永禄ノ頃小田原北條家人ニ。梶原氏ノモノアリテ。馬込村ヲ領シタルニヨリ。後人附會ノ說起リテ。カヽリ景時ガ舊蹟ノヤウニ云傳ヘシナラン。猶馬込村ノ條ニ合セ見ルベシ。

梶原松

延命櫻

此二木ハ共ニ客殿ノ前ニアリ。梶原景季地藏信仰ノ餘。手自ラ植シト云傳フ。今モコノ側ニナラビテ。地藏尊信心ノ人ハ櫻ノ木ヲ納ルコト、ナリタレバ。當寺ノ境内ニハ昔ヨリ櫻樹多カリシガ。猶近キ頃檀越ノ寄進ニテ。再ビ植增セシニヨリ。毎春花ノ頃ハ人ゴトニツドヒ來リテイト賑ヘリ。

嶺雲寺

境内除地五畝七歩　小名濱川町ニアリ。曹洞宗ニテ同郡南品川宿天龍寺ノ末ナリ。高祥山ト號ス。慶

長九年開山嚴育和尚ノ草創トイヘリ。中興ヲ不聞寶傳和尚ト云。萬治三年十一月十五日示寂ス。中興ノ開基ハ吉田半右衛門重房ト稱シテ。境内ニ墳墓モアリ。ソノ碑陰ニ記セシ大畧ニ云。重房ハ越前ノ人ナリ。故アリテ相州粕谷ニ来リテ住居セシニ。後當村ヘ移リテ村民トナリ。當寺ヲ開基シ。萬治三年五月二十一日享年六十五ニシテ死セリト。今此子孫ヲシテクズ。客殿五間ニ四間。本尊釋迦如来ヲ安置ス。

清傳寺 境内除地九畝五歩 小名御林町ニアリ。是モ天龍寺ノ末ナリ。福田山ト號ス。開山ハ不聞寶傳和尚ノヨシ。起立ノ年月ヲ詳ニセス。二世ヲ撥眼清傳和尚ト稱ス。寛文元年三月十九日ニ寂セリ。本尊釋迦如来客殿ニ安ス。

稲荷社 白王稲荷ト称ス。

泊船寺 境内除地二段八畝二十八歩 當寺モ御林町ニアリ。臨濟宗。江戸赤坂種徳寺ノ末ナリ。天林山ト號ス。永徳二年開山龍光和尚草創セリ。中興ヲ千巖億座元禪師ト云。延寶八年二月二十四日示寂ス。本尊彌陀如来ヲ安ス。

妙見堂　内陣九尺ニ六尺。拜殿二間半ニ二間。北極殿ト扁ス。前ニ木ノ鳥居アリ。

稲荷社　二間四方ノ社ナリ。前ニ木ノ鳥居ヲ建。正一位青雲霊老稲荷大明神ト扁ス。

牛耕菴蹟　客殿ノ南ノ方ニアリ。誹人芭蕉ノ建タル菴ナリシガ。享保四年回禄ニ罹リテ烏有トナリシガ。今ハ其蹟ヘ小堂ヲ搆ヘテ。芭蕉ノ像ヲ安セリ。

古碑　二基

共ニ文字磨滅シテ。全ク讀得ザレドモ。一ハ文和五年ト仄カニ見ユ。

地藏堂　境内拜領地九百九十六坪　小名御林町ニアリ。昔ハ濱川町ニアリシガ。寛文五年コヽヘ移サレシト云。三間四方ノ堂ナリ。来福寺ノ持。

刑罪場

刑罪場　濱川町ヨリ南ノ方ニアリ。慶安四年ヨリ此所ニテ一段二畝ノ地ヲ刑罪場ト定メラレタリ。前面ノ海岸ニ老松一株アリ。故ニ土入一本松獄門場ト云。又鈴ヶ森獄門場トモイヘド。鈴ヶ森ノ地ハ隣村不入斗村ニ属シテ。當村ニハ係ラザレバ。

此唱ヘハ里俗ノ訛リナリ。

舊蹟

萬福寺蹟　村ノ南ノ方ナリ。昔馬込村ノ萬福寺ココニアリシガ。應永ノ頃屡高波ノ患アリシカバ。ツレヲ避テカノ地ニ移リシ跡ナリトイヘリ。又土人此處ヲ丸山ト唱フレドモ。ソノ来由ヲ詳ニセズ。

御茶水　同所ニアル井ナリ。相傳フ正保ノ頃。此邊ヘ御放鷹ノツイデ。常林寺ヘ御立寄アリシ時。堀田加賀守此井ノ水ヲ汲テ。御茶ヲ奉リシヨリ。今モ舊蹟トシテ。御茶水ト呼ベルト。事ハ常林寺ノ條ニモ出タリ。

舊家

大野五藏　五藏ノ家祖ハ。御入國ノ頃里正ヲ勤ム。子孫相續キテ其職ヲツギ。五藏ガ父ノ時年頃其職ニ心ヲ用テ。農民等ヲモヨクヒキ井。年貢租税モ怠サリシ褒賞トシテ。文化二年八月。今ヨリ以來永世。苗字ヲ名乗ベキヨシ許サレシト云。家ノ系圖トテ世々藏セリ。ソノ譜ニ載シ大畧ニ云。斯波治部大輔義將ヨリ五代ノ孫。斯波左兵衛督

義敏ノ三男。三河守義高ノ時。堀越御所政知ニ事ヘテ。大野式部太輔政家トイヘリ。其子和泉守正敏ニ至リ。堀越御所茶々丸。北條早雲ガ為ニ亡ビシ後。明應九年八月西上杉ニ乞テ。亡君ノ讐ヲ報ントセシガ。運ヤ盡タリケン。戰ヒ負テヤウヤク武州ヘ遁レ来リ。遂ニ今ノ地ヲ開キテ住所トナシ。ソレヨリ子孫相傳ヘテ。今ニ至ルト云。家ニ村正ノ短刀一振。兼吉兼元ノ刀二振ヲ藏ス。コレハ堀越御所ヨリ賜ヒシモノト云。又墨畫ノ雲龍一幅。墨畫ノ雁一幅アリ。何レモ古色ニ見ユ。雲龍ハ筆者ヲ詳ニセズ。雁ハ雪舟ノ筆ナリ。又長廿四尺。高三尺。幅一尺五寸許ノ手水鉢アリ。世ニメヅラシキ石ナリ。方解石ナリトモイヘド。カヽル大ナル方解石モ稀ナリト云。彼ガ宅地ノ前ニ櫻一株アリ。享保年中　御放鷹ノオリカラ。コノ木ノ花ヲ御賞譽アリシトテ。後ハ　上意櫻ト名付テ謹テ保護セリ。

百姓源八海野氏ノ裔。櫻井對馬守ノ三男。長三郎某ノ子孫ノ由。云傳フレドモ。系圖舊記等ナケレバ。定カナラズ。家ニ先祖對馬守十六歳ノ時着セ

シト云甲冑。及ビ鎗一筋ヲ傳ヘタリシガ。イツノ頃ニヤ鎗ハ失ヒシトテ。甲冑ノミヲ藏ス。

上蛇窪村（カミヘビクボ）

上蛇窪村ハ。郡ノ中程ニアリ。村名ノ起リヲ詳ニセズ。土人ノ話ニ。此邊湿地ナレバ。蛇ノ多クスメルニヨリテ。村ニ名ヅケシニヤト云。東ハ大井下蛇窪ノ二村ニ接シ。西ハ中延村ニ及ビ。南ハ馬込大井ノ二村ニ境ヒ。北ハ下蛇窪中延ノ二村ニ隣レリ。大低東西モ南北モ十二三町。家數三十六軒。陸田多ク水田少シ。土性ハ砂錯リテ。穀物ニ宜カラズ。元禄八年織田越前守檢地ス。

御入国ノ後ヨリ伊奈半十郎ガ

家ニテ世々支配セシガ。今ハ大貫治右衛門光豊替レリ。

高札場　村ノ中程ヨリ。少シ東北ノ方ニアリ。

小名

谷戸(ヤト)

ツカンボウ　以上村ノ東ノ方ヲ去。

塚田(ツカダ)　東南ノ間ヲ去。

前田(マヘダ)　南ノ方ヲ去。

谷中(ヤナカ)　西南ノ方ヲ去。

関根(セキネ)　是モ同ジ邊ナリ。

中通(ナカドヲリ)　村ノ中程ヲ去。

宮前(ミヤマヘ)　西ノ方ヲ去。

大原(オホハラ)　北ノ方ヲ去。

山川

林　中延村ノ境ニアリ。松ノ林ナリ。

原野

芝原七

萱野二十九

藪三、何レモワヅカヅヽノ地ナリ。

神社

神明社 除地二段二畝 村ノ西ノ方ニアリ。社二間ニ二間半。村ノ鎮守ナリ。勧請ノ年歴ヲ詳ニセズ。馬込村長遠寺持。

末社

稲荷社 本社ノ側ニアリ。

下(シモ)蛇(ヘビ)窪(クボ)村

下蛇窪村ハ。上蛇窪村ノ南ニアリ。昔ハ一村ナリシト見エテ。村内多ク犬牙セリ。正保ノ頃ノ地圖ニハ。已ニ上下ニ分テリ。大抵東西ヘ七町。南北ヘ四町。東ハ大井村ニ接シ。西ハ中延戸越ノ二村ニ界ヒ。北モ戸越村ニ隣レリ。家數四十六軒。土性ハスベテ上蛇窪ト同ジ。當村モ 御入国ノ後ヨリ伊奈半十郎ガ世々支配所ナリ。元禄八年織田越前守検地セリ。寛政ノ始伊奈左近将監職ヲ失ヒテヨリ以來。大貫治

右衛門光豊支配ス。此餘五石ノ地。南品川長徳寺領
アリ。是天正十九年
東照宮御寄附アリシト云。
高札場　村ノ中程ヨリ。少シ東ノ方ニアリ。

小名

大間窪（オホマクボ）
宮田（ミヤタ）
前田（マヘダ）　共ニ村ノ西ノ方ヲ云。
原（ハラ）
上谷（カミカヤツ）
西（ニシ）　村ノ西ヲ云。
道上（ミチウヘ）　村ノ中程ヲ云。

原野

萱野五　何レモ少許ノ地ナリ。
藪　字道上ニアリ。一畝餘ノ藪ナリ。

神社

神明社　除地四畝二十三歩　村ノ東ノ方ニアリ。本社ハ六尺ニ九尺。拜殿二間ニ二間半。村ノ鎮守ナリ。勧請ノ年代ヲシラズ。祭禮九月十六日。東光寺持。
稲荷社　除地一畝二十一歩　同所ニアリ。是モ東光寺ノ持十

リ。

寺院

東光寺 除地五畝六歩 村ノ東ノ方ニアリ。天台宗。江戸麹町山王別當。城琳寺ノ門徒ナリ。九遠山不動院ト號ス。開山開基及ビ起立ノ年代ヲ傳ヘズ。法印幸傳ト云モノヽ墓石ニ。寛永三年九月七日ト彫タリ。客殿三間ニ四間。本尊弥陀如来ヲ安ス。

庚申塚 除地四歩 東光院ヨリ少シ東ノ方ニアリ。同寺ノ持。

戸越村

戸越村ハ。南品川宿ノ北ニアリ。家數百三十一。南ハ南品川宿及中延村。西ハ碑文谷。下目黒。小山ノ三村ナリ。北ハ桐谷村。東西二十七町。南北八町餘。陸田多ク水田少シ。土性ハ砂錯ナリ。當村開墾ノ年代詳ナラズ。小田原分國ノ頃ハ。太田新六郎康資ガ知行ニシテ。寄子梶原某ヘ配當高拾三貫三百文ノ由。其頃ハ當村モ六郷ノ内ニ属セシコト。北條役帳ニ見エタリ。御入國後寛永二十一年。及ヒ寛文年中。伊奈

半十郎撿地ス。其後元禄十年。織田越前守改ム。古ヨリ御料所ニシテ。伊奈氏世々支配セシガ。今大貫次右衛門光豊支配ス。此餘五石七斗五升三合北品川清徳寺領。及同所稲荷社領一石五斗交ハレリ。

小名

唐ケ崎　村ノ西南ノ方ヲ云。

平塚　村ノ西ノ方ヲ云。

辻　東ノ方ヲ云。

中通　村ノ中程ヲ云。下同古海道ノ跡ナレハ。コノ名アリト。

岩清水

藪清水

神社

八幡社　除地二段五畝十五歩　村ノ東ニアリ。神體ハ木像ニテ。長五寸許ノ座像ナリ。村内字藪清水ト云所ヨリ出現スト云傳フ。勧請ノ年月詳ナラズ。村ノ鎮守ニテ。毎歳九月二十八日神樂ヲ奏ス。本社九尺四方。前ニ拝殿アリ。四間ニ二間半。ソレヨリ二町許ノ間ハ。西側ニ松杉ノ並木連リ。其中央ニ石ノ鳥居ヲタツ。行慶寺別當セリ。

寺院

行慶寺 除地五百五十六坪餘

八幡社ノ西ニアリ。浄土宗。南品川宿願行寺末。八幡山成就院ト號ス。開山ハ圓蓮社方誉西源大徳。寛文十一年七月十五日示寂ス。本堂六間四方。本尊三尊阿弥陀如来ヲ安置ス。座像ニシテ一尺二寸餘。

観音堂 本堂ノ坤ニアリ。二間四方。準胝観世音ヲ安ス。

舊家

百姓平右衛門 平右衛門ハ。鈴木氏ナリ。先祖ハ鈴木加賀守清重ト云。相傳フ北條氏尚ノ庶子ナリ。母ノ賎キヲ以テ。憚テ鈴木ヲ氏トセリト。氏尚モ小田原ノ氏政氏直ナドノ一族ナリヤ。未其家系ヲ考ヘズ。清重ハ天正八年十一月十五日没ス。フレヨリ今ノ平右衛門ニ至ルマデ血脉相續セリ。左ノ二品ヲ家ニ藏ス。

将軍地藏像 一軀

伽羅ニテ作ル。長一寸二分。古色ニシテ彫刻至テ工ナリ。錦ノ嚢ニ入ル。先祖ノ守佛ニシテ。軍陣ノ時胄ノ天空ヘ納シト云傳フ。

冨士山御画　一幅

嚴有院殿ノ御筆ナリ。故アツテ松平周防守ヨリ贈リシト云。

桐ケ谷村（キリヤ）

桐ケ谷村ハ。郡ノ東境ニアリ。江戸日本橋ヨリ二里半ノ行程ナリ。家數六十軒。東ハ居木橋。下大崎。谷山ノ三村ニ隣リ。南ハ谷山。戸越ノ二村ニ接シ。西ハ下目黒村ニ及ビ。北ハ上大崎村ニ交ル。東西二十町南北八町餘。南ノ方ハスベテ丘ナリ。北ニ及ビテハ地低クシテ谷合多シ。村ノ東ノ方ニ相州街道係レリ。下大崎村ヨリ入テ戸越村ニ達ス。此間五町許。當村閑墾ノ年代詳ナラズ。御入國ノ後御料所ニテ。元禄

八年織田越前守撿地ス。又同ジ項村西ノ溜井ヲ開墾シテ。水田トセシモノ五段。伊奈半左衛門撿地シテ新田トナル。今ハ一圓ニ大貫治右衛門光豊ガ支配所ナリ。

小名

幡ケ谷　本村ヨリ東南ノ方。八幡宮ノ邉ヲ云。凡十町四方許ノ地ナリ。

幡ケ谷上　本村ヨリ西南ノ方ナリ。凡七八町四方。

花ケ谷　本村ヨリ西北ノ方。六町四方許ノ地ナリ。

上ノ池　本村ノ西ニアリ。堤ノ邉ナリ。

座頭窪　村ノ東ノ方。凡二町四方許ノ地ナリ。

禿山　村ノ西ノ方。上ノ池ノ上ニアリ。廣サ一町四方。

山伏塚　村ノ西ニアリ。此所ニ山伏塚ト稱スル塚アリ。故ニ土地ノ字トナレリ。名主宇右衛門ガ先祖。農家トナリシ頃。持傳ヘシ武器ヲ埋ミテ。築キシ塚ナリ。

ト云傳フ。其名ノ起リシ所以ハ詳ナラズ。

山川

目黒川 當村ト下目黒。上大崎トノ界ヲ流ル。川幅五間餘。

水利

多磨川分水 隣村下大崎ヨリ流来リ。村内ヲ過テ戸越村ニ入。其間五町許。所々ノ水田ニ漑グ。

神社

氷川社 境内除地五段二畝 村ノ中央ニアリ。本社ハ丘上ニアリ。七間ニ九尺。拝殿三間四方。石階二十級ヲ下リテ鳥居ヲ立。両柱ノ間九尺。左右ニ古松アリ。圍各一丈八尺餘。當社鎮座ノ年代詳ナラズ。昔ハ年貢地ナリシガ。元禄年中ヨリ社地免除アリシト云。祭禮年々正月十五日。備射講ト云コトヲ執行シ。神樂ヲ奏ス。村内安樂寺持。下四社同ジ。

末社

稲荷社 祭禮年々二月初午ノ日。コレモ本社ノ如ク。備射神樂等ヲ執行ス。

八幡社 除地一段五畝 村南ノ丘上ニアリ。

諏訪社 除地三段 是モ村南ニテ。相州街道ノ中ニアリ。

茅六天社 見捨地 村西ニアリ。小祠ナリ。

茅六天社 下目黒川道ノ往還ニアリ。小祠。

寺院

安樂寺 境内除地七畝 村ノ中央ニアリ。天台宗。江戸麹町山王別當城琳寺末。松園山寶林院ト號ス。開山ハ堅者添印良珊。天正元年正月寂ス。本堂五間ニ四間半。本尊三尊彌陀ヲ安ス。座像ニテ長三尺許。昔ハ不動尊ヲ本尊トセシガ。何ノ頃カ紛失セシユヘ。今ノ本尊ヲ建立セシト云。境内ニ池アリ。荻アマタツノ邊ニ植ユ。

霊源寺 境内三千五百三十八坪 村ノ東。相州街道ノ中ニアリ。浄土宗。江戸三田長松寺末。諸宗山無常院ト號ス。開山皇蓮社林珠霊源。寛文六年寂ス。本尊阿彌陀。木佛ニシテ座像長二尺。當寺昔ハ三田豊岡町ニアリシガ。何ノ頃カ當所ニ遷レリ。

地藏堂 惣門ノ正面ニアリ。地藏ノ像ハ立像ニシテ長四尺餘。

稲荷社 客殿ノ背後ニアリ。

荼毘所 境内奥ノ方ニアリ。近郷ノ寺院ヘ送葬

ノ筆。當寺ヘ送リテ茶毘ス。

安養院　年貢地村ノ西北ノ方。隣村目黒不動ノ並ビニアリ。天台宗。下目黒村瀧泉寺末。臥龍山能仁寺ト號ス。延寳ノ頃。時ノ住僧長音中興ス。本堂七間ニ七間半。本尊釋迦ヲ安ス。昔ハ涅槃ノ像ヲ本尊トセシガ。近キ頃回禄ニ罹リテ烏有ス。サレド其名残ニヨリ。土俗ニハ寢釋迦寺ト呼ブ。門ハ両柱ノ間九尺。安養院ノ扁額ハ支那獨湛ノ落款アリ。門内ニ石階三級アリ。コヽヲ限トシテ内ハ當村ノ地ニテ。外ハ下目黒村ノ内字入家ト云所ナリ。

鐘樓　享保四年鑄造ノ鐘ヲカク。

稲荷秋葉山王合社　客殿ニ向テ左ノ方ニアリ。一間四方。

不動堂　同ク右ニアリ。二間ニ三間。不動ノ像ハ慈覚大師十三歳ノ時ノ作ト云傳フ。座像ニテ長二尺。

閻魔堂　境内ニアリ。二間四方。

居木橋村（ヰルギバシ）

居木橋村ハ。品川宿ノ西ニアリ。村ノ東境ニ居木橋ト云橋アルユヘニ此名起レリト。又土人ノ説ニ。品川宿ノ境ニユルギノ松ト云古松アリシ。故ニユルギ村トモ唱フ。居木ト書ハ假借ナリト。コレモウケガタキ説ニテ。後人ノ牽強ナルコトシラル。家數三十八軒。東ノ方ハ南北品川宿ニ接シ。南ハ南品川宿及戸越村ニ隣リ。西ハ谷山桐ヶ谷ノ二村犬牙シテ。互ニ飛地多シ。北ハ下大崎村及北品川宿ニテ。大抵目

黒川ヲ界トス。東西八町南北五町許。水田陸田相半セリ。ソノ土ハ砂マジリテ瘠地ナリ。古ヨリ御料所ニシテ。伊奈氏世々ノ支配所ナリシガ。今ハ大貫次右衛門御代官所ナリ。

山川

目黒川　村ノ東北ノ方ヲ流ル。川幅凡七間餘。

橋梁

居木橋　目黒川ニ架ス。當村ヨリ北品川宿ヘ達ス。長七間幅二間。此橋村名ノ起ルモトナリト云トキハ。古キ橋ナルコト知ルベシ。

神社

五社明神社　除地三段六畝　村ノ東南ニアリ。古ハ村ノ西北ニアリシガ。水溢ノ憂ヲ避テ。今ノ地ヘ移レリ。舊蹟ニハ松ノ大樹残レリ。コレ前ニイヘルユルギノ松ト称スルモノナリ。今ノ社地ハ土地高クシテ喬木茂リアヘリ。本社三間半ニ二間。祭神ハ雉子大明神ナリ。當所遷座ノトキ。村内ニ祀リシ祠。貴船明神。春日明神。子権現。稲荷明神ノ四座ヲ配祀シテ。一社トス。故ニ五社明神ト號ス。本社ノ前ニ拝殿アリ。二間四方。石階十五級ヲ下リテ石

ノ鳥居ヲ立。祭禮毎年九月二十三日。村民神樂ヲ執行ス。當所鎮座ノ年代ハ詳ナラズ。當所ヘ遷座アリシハ。百七十年前ノコトナリ。觀音寺持。

寺院

觀音寺 境内除地一段八畝 村ノ東南五社明神社ノ東ニアリ。天台宗。江戸麴町山王別當城琳寺末。古ハ東雉山松林院ト號セシガ。何ノ頃ニカ金剛山圓通院ト改ム。開山ハ大阿闍梨法印光海。天正元年九月三日示寂ス。中興開山ハ第十三世法印智淵。享保ノ頃ノ人ナリ。此時始テ城琳寺末トナレリ。當寺モ昔ハ居木橋ノ少シ南ノ方ニアリシトゾ。其跡ニ今石地藏残レリ。客殿六間ニ五間。本尊釋迦如來ハ。座像ニシテ長二尺許。脇士文殊普賢ヲ安ス。

觀音堂 三間ニ二間半。客殿ノ北ニアリ。本尊ハ如意輪觀音ナリ。慈覺大師ノ作ト云傳フ。

上大崎村

上大崎村ハ。郡ノ東境ニアリ。江戸日本橋ヨリ二里。開墾ノ年代ヲ傳ヘズ。正保ノ頃マデモ。大崎村トノミ古圖ニ見エタリ。元祿ノ改ニハ既ニ上下ニ分テリ。下分ノ地ハ。コレヨリ前島田某ノ開キシコトハ。後ニ見ユ。家數二十一。東ハ下大崎村及ビ品川宿ニ續キ。南ハ桐ヶ谷谷山ノ二村ニ隣リ。西ハ下目黒村ニ錯リ。北ハ今里村ニ堺フ。ソノ中ニ谷山下大崎ノ地ハ入合多クシテ。接界別チガタシ。東西十五町許南

北十二町餘。南ノ方目黒川ノ邊ハ。平地ニシテ。水田ヲ開ケリ。土性ハ真土或ハ黒野土ナリ。西ノ方ハ高低アリテ。松平上総介。松平内匠頭。森佐渡守。柳生但馬守等ノ下屋舗アリ。検地ハ元禄八年織田越前守改ノシ後。享保十七年寛播磨守新田ヲ検ス。村内ニ相州中原ヘ達スル古海道アリ。俗ニ中原海道新道ト云フ。當所ハ其往還ノ驛ニテ。爰ヨリ橘樹郡小杉佐井戸ヲ歷テ。相州ノ内中山ニ至リ。夫ヨリ中原ニ達セシト云。昔ヨリ御料所ニテ今ハ大貫治右衛門光豊ガ支配所ナリ。又昔村内小名六軒茶屋ト唱ヘ一シ。段別一町四段九畝五歩ノ地。及小名永峯ト呼ル段別二町一段一歩ノ所ハ。正徳三年ヨリ御府内町並トナレリ。

小名

永峯町

六軒茶屋町　二ケ所トモ。白金臺町ノ續ニテ。町奉行支配ニ属セリ。

山川

目黒川　村ノ南境ヲ流ル。川幅五間許。

原野

萱野 二ヶ所

林十一ヶ所 共ニ百姓持ナリ。

橋梁

橋 目黒川ニ架ス。板橋ナリ。當村ヨリ谷山村ニ達ス。長六間幅二間。

屋敷

一ッ橋殿抱屋鋪 當村及ヒ下目黒村入會ノ地ナリ。今有馬玄蕃頭借請トセリ。

松平上総介抱屋鋪 下屋鋪ニ添リ。下大崎村ト入會フ。

松平主殿頭抱屋鋪 當村及ヒ三田中目黒下目黒等。四村入會ノ地ナリ。

真田伊豆守抱屋鋪 下大崎村ト入會ヘリ。

森佐渡守抱屋鋪 下屋鋪ニ添フ。

長田亀吉抱屋鋪 併領地ニ添フ。

井戸八郎抱屋鋪

高木新五郎抱屋鋪 下目黒村ト入會ノ地ニアリ。新五郎ハ松平主殿頭ノ家人ナリ。

神社

三嶋社 社地二十八歩 村ノ南ニアリ。小祠。勧請ノ年代傳

ハラズ。下大崎村寶塔寺持。

寺院

德藏寺 境内七畝六歩 村ノ南ニアリ。天台宗。江戸麹町城琳寺末。長命山地藏院ト號ス。開闢ノ年代開山ノ名モ傳ヘズ。本堂六間ニ五間。本尊三尊彌陀ヲ安置ス。

觀音堂 門ヲ入テ右ニアリ。三間ニ二間。觀音ノ立像三尺。惠心ノ作ナリト云傳フ。

增上寺下屋鋪 村ノ北ニアリ。寛文元年麻布龜前坊谷ノ替地トシテ賜ハレリ。構内ニ子院七ケ寺アリ。左ノ如シ。

最上寺 極善山即相院ト號ス。開山源蓮社勝譽巡公。元和六年三月二十二日寂ス。開基ハ戸川隱岐守。同筑前守ノ祖。内藏助ナリ。

大鐘 近世鑄造ノ鐘ナレド。銘文考証ニ益アレバ。左ニ載ス。

武州荏原郡大崎邑。極善山即相院最上寺者。勝譽巡公上人之所創。而戸川君内藏助之所造也。寺原在都下溜池。祝融為祟。堂宇悉烏有焉。内卜地于麻布狸穴。經営再成。寛文元年寺

主有故又移之大崎。今寺即是也。按上人弱齡學于三緣山。觀智國師會下。為人篤恭修道勇猛学德日進。國師以為法器。寵遇異於他矣。當是之時戸川君館于溜池。丗堂素帰佛乘。特欽上人道風以奉其教。未幾以病逝矣。戸川君乃奉遺命。寄其園宅於上人。上人許之官。遂以其地為道場焉。國師歎美其勤。輙命之以今號。實元和二年丙辰之秋也。嗚呼創基悠遠。於今幾二百年。其地三轉而結構愈隆。淨業日新。蓋是上人德澤之所流乎。但所闕者銅鐘耳。現住第十三世量譽察堂上人有志於求焉。適有中村道壽居士者。喜捨淨財以助其志。今茲春三月新鑄洪鐘以供其文祖隨譽智雲道松信士。及親族諸靈之冥福也。察道上人與予有故。請余銘之。余為之銘曰。

洪鐘兹就　響當商宮　獅吼雷振
三有頓空　佛日重曜　聖澤滋隆
誰此靈器　利濟無窮

寛政二年庚戌春三月

本願寺

選擇山念佛院ト號ス。開山稱譽光幽。寛

永十一年四月十日寂ス。

正福寺　知足山少欲院ト號ス。開山眞譽論道。正保三年二月六日寂ス。開基山崎猪左衛門妻女歡翁宗秣。元和五年十二月二十九日死ス。

戒法寺　東照山榮願院ト號ス。開山傳譽良呑。元和八年江戸本芝ニ起立ス。寛永九年麻布狸穴ニ移リ。寛文元年御用地トナリ。延宝二年コヽニ移レリト云。良呑ハ承應元年五月四日寂ス。

善長寺　道德山傳受院ト號ス。開山信譽良阿。緣山ノ宝樹庵(今宝松院)ヲ開キ。次テ芝新錢座町ニ當寺ヲ起立シ。寛永十一年飯倉町五町目ニ移リ。寛文八年コヽニ轉ス。初ハ大運寺ト號セシニ。慶安二年緣山業譽。今ノ山寺號ヲ賜ハレリ。

清岸寺　法性山淨國院ト號ス。開山曉譽法雲。寛永七年江戸八町堀ニ草創セリ。同ク十二年御用地トナリ。芝金杉ニ轉セシニ。明暦三年回禄ノ後。麻布狸穴ニ移リ。寛文元年御用地トナリ。コヽニ轉ス。法雲ハ寛永十九年正月二十九日寂ス。

大鐘　八世順亮ノ時鑄造ス。

光明寺　宝運山摂現院ト號ス。開山向誉知童。寛永元年江戸西久保ニ起立シ。慶安寺ト云。同十一年麻布狸穴ニ移リ。寛文元年御用地トナリ。天和三年コヽニ移リ。今ノ寺號ニ改ム。知童ハ寛永十五年十二月二十日寂ス。十名地蔵尊ヲ安ス。駿州普陀山久能寺源清僧正ノ感得ト云。

了福寺　多善山心光院ト號ス。開山門誉道山。寛永十一年芝赤羽ニ起立セシニ。御用地トナリ。コヽニ移レリ。今堂宇頽廢ス。

鐘楢堂　門ヲ入テ左ニアリ。

大崎明神社　門ヲ入テ正面ニアリ。往古大崎郷ノ惣鎮守ナリシト云。

火葬地　南ノ方ニアリ。已上ノ各院ニテ寺務ス。

下(シモ)大(オホ)崎(サキ)村

下大崎村ハ。上大崎ノ東ニアリ。分村及江戸ノ行程前ニ見エタリ。家數三十三軒。東ヨリ北ヘハ白金村。及北品川宿。品川臺町。今里村。大崎村等ニ隣リ。南ハ谷山。桐ヶ谷。居木橋ノ三村ニ堺ヒ。西ハ上大崎。谷山ノ二村ニ接ス。上大崎及品川宿ノ接界ハ。土地尤牙シテ分チ難シ。凡東西五町。南北モ同ジ。相傳フ昔此地ニ。嶋田岩狭ト云人アリテ闢墾セリ。今ノ名主庄八ハ其子孫ナリト云。村ノ地形ハ。北東ノ方土地高ク

シテ。西南ハ打開ケ水田多シ。土性ハ野土黒土等ニテ。砂利交ハレリ。陸田ハ水田ニヒスレバ多シ。元禄八年織田越前守検地ス。昔ヨリ御料所ニテ。伊奈半十郎ガ御預所ナリ。宝暦ノ頃マデモ半十郎ガ子孫半左衛門忠宥支配セシガ。後ニ御代官舟橋安右衛門柴村藤右衛門小野左太夫辻源五郎等相替リテ支配セリ。寛政年中ヨリ大貫治右衛門光豊ガ支配所トナレリ。当所御城下ヲ距コト遠カラザレハ。元和ノ頃松平上総介ニ別業地ヲ賜リシヲ始トシテ。萬治寛文以来年々武家ノ別業ニ賜ハリ。又ハ抱屋敷トナリシモノ出来テ。今ハ十ヶ所ニ及ベリ。故ニソノ田地ハ次第ニセバマリシコト知ベシ。

山川

目黒川　村ノ南ヲ流ル。西ノ方谷山村ヨリ流入。村内ヲ経ルコト二町許ニシテ。北品川宿ヘ入。川幅六間。

橋梁

板橋　目黒川ニ架ス。長六間幅二間。御普請所ナリ。

原野

萱野　二ヶ所アリ。

水利

三田用水　水元ハ同郡下北澤村ヨリ。多磨川分水ヲ引分ケ。數村ヘテ白金今里入合ノ地ヨリ村内ヘ流入。所々ノ水田ヘ汱ギ。餘流ハ北品川ノ地ヘ入。

圦樋　里俗宝塔寺下圦樋ト唱フ。長四間半高横共ニ一尺。傍ニ樋アリテ用水ヲ通ズ。

屋敷

松平陸奥守抱屋敷　下屋敷ニ添リ。

松平上総介抱屋敷　上大崎村ト入會。下屋鋪ニ添フ。

松平出羽守抱屋鋪　下屋鋪ニ添フ。

久留嶋伊豫守抱屋鋪

一柳近江守抱屋鋪

真田伊豆守抱屋鋪　上大崎村ト入會リ。

豊田九右衛門抱屋鋪　九右衛門ハ。紀伊殿ノ家入ナリ。

品川歩林院抱屋鋪　少林院ハ。東海寺ノ塔中ナリ。北品川宿ノ界ニアリ。

神社

雉子宮　除地六段一畝九歩　村ノ東方。品川臺町ノ境ニアリ。上下大崎及谷山村ノ鎮守ナリ。祭神日本武尊。社傳ニ云。文明年中當所ニ白雉一羽飛來テ死ス。其夜村氏ノ夢ニ。甲冑ヲ著シタル人來テ告テ云。我ハ日本武尊ナリ。我ヲ當所ニ祀ラバ。國家ヲ守護シ。村民安全ナルベシトテ。遂ニ白雉ト化シ飛去ス。是ニヨツテ彼白雉ヲ埋ミ。大鳥明神ト號ス。大猷院殿此邊　御放鷹ノ時。白雉一羽當山ニ飛入シカバ。是ヲ追テ社前ニ至ラセ給ヒ。村民ニ神號ヲ問セラレシニ。大鳥明神ト言上セシカバ。今ヨリ雉子宮ト稱スベシト　上意アリシト云。神体木像長一尺三寸。本社方一間半。幣殿二間ニ一間。拜殿五間ニ二間。向拜一間半ニ二間。社前ニ石階アリ。其下ニ石ノ鳥居水屋等建リ。例祭九月二日。

末社

稲荷三島子神合社　本社ノ西南ニアリ。一間半ニ一間。神躰各幣束ナリ。三島ハ元上大崎村ニ鎮座シ。子神モ別社ニテ。村内ニアリシカ。何ノ項カ爰ニ合祀ス。三島ノ旧地ニ百十坪。子神ノ

元地二十八坪。共ニ見捨地ニテ。別當寺ノ進退ナリ。

別當寶塔寺　本社ノ東ニアリ。天台宗ニテ。文亀二年南品川猟師町ノ邊ニ草創スト傳フ。サレド猟師町ハ。明暦年間海岸ノ寄洲ヲ築立シ所ナレバ。此傳請ガタシ。初ハ添東寺ト書ス。寛永ノ頃今ノ文字ニ改。且慈光院ト號ス。萬治年中村内今ノ一栁氏ノ抱屋鋪ノ邊ニ移レリ。然ルニ目黒川溢レテ屢水災ニ罹リシ故。今ノ地ニ轉ス。草創以來江戸麹町城琳寺門徒ナリシニ。正德四年中興開山傳陽ノ時。東叡山ヨリ寺格ヲ進メ。城琳寺末寺トナシ。且山號ヲ許シテ白雄山ト號ス。其免許状今ニ藏ス。傳陽ハ享保十六年十月十五日寂ス。本堂庫裏ヲ合テ十二間ニ五間。本尊彌陀。木ノ立像長四尺。脇立觀音勢至。長各一尺五寸。

元三大師堂　門ヲ入テ左ニアリ。方二間。内拝殿三間ニ一間半。拝殿七間ニ二間半。庫裏ノ方ニ通フ廊下アリ。大師自筆ノ画像ヲ置。此像ハ當寺南品川ニアリシ頃。何クノ者トモ

知ヌ僧。攜来テ住持ニ授與スト云。脇立二童子ハ木ノ立像。長二尺二寸。外ニ観音ノ像二軀ヲ置。拜殿中ニモ不動ノ像ヲ安セリ。

門前町屋　間口六十間餘。歩數二百三十八坪餘。延享二年町奉行支配トナレリ。

子神社　除地一段　村西ニアリ。今ハ社荒廢シ。神躰ハ別當寶塔寺ニ置リ。

寺院

壽昌寺　除地一段六畝二十五歩。見捨地一段九畝。年貢地二段三畝七歩。　村ノ東方ニアリ。禅宗臨済派。京都妙心寺末。大崎山ト號ス。大悲圓満國師。深川新田島ニ起立ス。旧地今詳ナラズ。正保二年當所太田道灌勧請セシ。辨財天社ノ除地八畝二十二歩ノ敷地ヲ。國師譲受。又年貢地若干ヲ添地トシテ。寺ヲ爰ニ移セリ。開基ハ松平陸奥守政宗ノ室。陽徳院榮庵壽昌尼ナリ。此人國師ニ帰依シテ。堂宇以下ヲ造營シ。法名ヲ以テ寺號トス。承應二年正月二十四日卒ス。國師ハ萬治二年八月八日示寂。中興開山虚霊空明禅師。貞享元年十月十五日寂ス。其後元禄八年織田越前守信久撿地ノ時。彼添地ヨリモ除地トナセリ。客殿八間ニ

五間。本尊華嚴釋迦。脇立文殊普賢。共ニ座像長六寸五分。

寺寶

開山圓滿國師木像　一軀

開基壽昌尼肖像　一幅

羅漢画　兆殿司筆　一幅

涅槃像　藤原安来ノ筆　一幅

鐘樓　門ヲ入ル左ニアリ。元ハ六時ヲ報セシガ。今ハ廢ス。銘文左ノ如シ。

武藏州荏原郡。大崎山壽昌禪寺。故黄門伊達政宗卿之室。陽德院殿榮菴壽昌大姉栁艸之地。而大悲圓滿國師唱道之梵宮也。鬱彼南隣。我大檀那從四位上行左近衛中將兼陸奥守。退隱後稱左兵衛督。藤原朝臣吉村公。爰開袖壽之別莊。以為粮浩之地。今茲寛保三年癸亥秋八月二日隱棲于茲。公俛仰山水之日。顧問左右曰。此處有報時之鐘歟。侍臣對曰。是地也宅幽而阻遠。是故難聞應天實數之鐘。是以晨進夜退莫

可稽憑。庶幾為鐘以宣教令。於是命執事告皃為華鐘。公之賢夫人貞子。及淑女等聞其言而隨喜之。偕戮力同志。其功烈豈易量乎。予謂無有一佛不以音聲而化群品。無有一機不從耳根聞教解悟。由是觀之。鐘也者法器之最勝也。其功烈豈易量哉。不日而鐘成。以懸大崎峯之殿前。時々扣擊而警更點。因予論之為之銘。銘曰。於戲令音。々々普聞。遐邇交喜。晝夜平分。華鯨吼月。蒼竜吟雲。僧驚禮佛。士嚴事君。聲迎初日。響留餘曛。祥風時至。佳氣自薫。鴻恩如答。群類如忻。獻萬歲壽。永千秋勳。

寛保三年九月良辰　現住寂菴瑞旭識

執事佐伯豊前藤原永績

營造掩係甚助平主盛

冶工神田住小幡内匠藤原勝行

右所係舊鐘銘也以垂後鑑

大壽山壽昌禪寺三鑄華鐘之記

夫鐘也者不朽之法器。而三鑄之者何乎。蓋冶工之不精。而扣擊亦過度乎。寛保三年癸亥之秋始鑄鐘。未幾鐘破矣。延享二年乙丑之夏再

鑄之。是咸故陸奥守羽林中郎將藤原吉村公。隱栖於袖嵜之日。下命令所鑄也。今茲寳暦十年庚辰之夏。亦殆生鉎。鳴之則如銅鉦。聞者憂之。今陸奥守羽林次將藤原重村公。不空祖君之意。命有司三改鑄之。妙音新發。聞者喜之。令余記其事。至鳴六時鐘之顛末。則舊鐘之銘載在上件。寂庵師祖之所勒。歷々矣照々矣。余言曷贅焉。

寳暦十年庚辰秋九月穀旦

現住萬崖陶愚謹誌

執吏青木内藏丞源頼存

營造石森長太夫藤原元宜

冶工神田住西村藤原政時

觀音堂

門ヲ入右ニアリ。三間四方。正觀音ヲ安ス。長二尺八寸。縁起ニ據ニ。天竺僧曇無讖三藏諸名香ヲモテ作レル塑像ニテ。西土揚州大明寺ニ安セリ。鑑真和尚帰化ノ日攜来リ。夫ヨリ道ノ星霜ヲ往テ。鐵船道者ニ傳ハリ。南都ノ草庵ニ安セシニ。道者當寺中興空明禪師ト所縁アルヲ以。江都ニ来リ。師資ノ約ヲナシ。延宝三

年四月十五日寂スルノ後。遺言ニ任セ北堂ヲ造立シテ。彼像ヲ安置ストイフ。

辨天社　門ヲ入テ左ニアリ。方九尺。前ニ太田道灌ノ勧請セシハ是ナリ。神躰木像。長七寸五分。

稲荷社　西南ノ方ニアリ。小社。下同。

天神社　西北ノ方ニアリ。

本立寺　除地四段五畝二十六歩。年貢地五段七畝九歩。見捨地三段七畝六歩。壽昌寺ノ北ニアリ。法華宗。池上本門寺末。妙建山ト號ス。慶長二年本寺十二世。佛乗院日惺。上目黒村ニ起立ス。其後衰微シテ住僧モナシ。當所恵性寺ヨリ兼帯セリ。然ルニ貞享四年新地ノ寺院ヲ廢セラレシ時。恵性寺ハ正保四年起立ノ寺ナレハ。則廢セラル。此時住持日演公ニ願ヒ。本立寺ノ山寺號ヲ廢跡ニ移シ。同寺二世以下住僧ノ名ヲ除キ。恵性寺開山性澄院日通ヲ第二世トシテ。相續ス。開山日惺ハ。備前國福岡ノ人ニテ。二條関白昭實卿ノ猶子タリ。天正九年相州鎌倉妙本寺。及池上本門寺西山ノ住職トナリ。御府内ニ五ケ寺ヲ開キ。又房総二州ニモ數ケ寺ヲ創セリ。慶長二年

七月六日示寂。開基ハ能勢市十郎頼永ノ妻ナリ。寛永十八年九月二十日死ス。法名法性院天窓日忠。實ハ恵性寺ノ開基ニテ。同寺ハ此人死後七年ニ當リ。其菩提ノ為起立スト云。本堂七間ニ六間。本尊三寶ヲ安ス。

太神宮　本堂ノ右ニアリ。境内ノ鎮守ナリ。三間ニ四間。神躰木像。長三寸餘。正保四年巖有院殿ノ命ニヨリテ。近江局（能勢摂津守頼次女ナリ）當寺ニ寄附スト云。社内ニ稲荷ノ神躰長七寸ナルヲ置。又日蓮ノ像アリ。長臺座共二尺。

門前町屋　間口二間。歩數四十二坪。延享二年町奉行ノ支配トナル。

舊家

名主庄八　先祖島田若狹ハ。甲州ノ士ナリ。武田氏滅亡ノ後。當所ヘ潜居シ。此地ヲ開墾セリ。因テ世世名主ノ役ヲ相續ス。

百姓清九郎　立石伊賀守ノ裔ナリ。子孫民間ニ下リ。北品川ノ農家トナレリ。今モ彼地ニ住ル清三郎ハ。同胞ノ分家ナリ。清九郎ノ祖當村ニ移リシ後。其父善徳院ト云ルモノ此家ニ隠居セリ。故ニ

所藏セシ北條氏ヨリ與ヘシ文書數通ヲ藏ス。其文左ノ如シ。

國井讃岐退治之　四月廿八日　幸充

於御年

拾貫二百六十九文　武州小田川

右為讃岐守望替。百貫文地之内六貫文宛

於當知行之。小田川拾貫二百六十九文。此役錢者貫

九貫無之文之前ひ之ていさして貢役從。毎月公方之

年之支馬之一調之。此後者自り定之讃岐守さ

不行き被免候。細事候も之中付候。之者之

代納候之儀者。有間此旨如先規之主に被

仰付之未て役並奉公仕候事文并満延候事文大善候

下知之通候文ヲ以来中ハ要ヲ様ニ等銭一貫文

代官之事百姓及迷惑出来者申出候へ

小田原へ来可申上事。

退転之百姓、還住仕者、借銭借米令赦免候

然者当年よりハ公方借銭やりて之被下候者也

被仰付赦免事。

一、無御判形郡代夫、自今以後、立之者、可申上事。

北条氏虎印

天文十九年庚戌四月朔日

小田川百姓中

出銭七千七文

四月諸役之事

武州小机小田川

在方　農作以　地より出来る熟し一新帳
お定候御年貢米川西役無之半分以役銭参貴文ハ
苦ひのくハ了一之負数行毎月吉例年まうとく
下調之以儀ハ昔より定候年貢上る田畑之級
免ん細見帳之中付候取代録日記帳之控
万貴以其中熟去也至百姓共年貢之事
作体米麦四拝書文大豆等種々ハて致し此年文年

中等之様之ん以米盛一新帳
路代官ん百姓為迷惑ん年帳以下触中勘定ハ庄屋ん
年貢帳。
退役に百姓退役行為ハ借銭借米て申触無之候
役り之者以年之御吟味候ハ役ん被仰聞候ハて
御取計之帳。
呈之以判取代文日を以候而之事と之以吟味候。

北条氏虎印

天文十九年庚戌四月朔日

南条四郎左衛門尉

従角綱不精職候ニ仰付而掟事

一棟別銭並諸役赦免之上、於懸銭上銭　四半銭

懸之申付候之懸銭之内地下對ニ出付

如此候、棟別銭之前ゝ者郷中之衆、無懸候小事

於其上田畠出来之、懸銭銭皆済之日限九月晦日

月晦日ニ四ケ二ケ之事

料足之　撰り候　九月晦日　同晦日

十月晦日　同晦日

此以後ニハ定年貢之外此以月済之[illegible]
集[illegible]之[illegible]取立者右曲事ニ候則可被成御成敗[illegible]
当年雑穀ニハ[illegible]
付納法之事[illegible]升[illegible]
其升[illegible]

一

以上

右二ケ条定置[illegible]
者[illegible]
可有[illegible]之[illegible]仍状如件

北条氏虎印

永禄[illegible]甲
子九月[illegible]日

[illegible]川両代官
百姓中

從飯河之郷而已
閑居之者之中。人
遊之法圓法於。約先
此乃禮節之申所。不
猶附自一之長進也。

可遂親之密事也。
此間閑法等細之。大
遂以申之一之後未
剋未然。仍如件。
天正二年甲戌

九月三日　北条陸奥守 [illegible]

品河町人
百姓中

改而百姓被開[illegible]之事

一 [illegible]前判[illegible]候而も[illegible]

前々之[illegible]時之判[illegible]月[illegible]年[illegible]

一 [illegible]國[illegible]先[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]百姓[illegible]

一　奴婢年季之儀、役儀者御法度ニ付、十年季ヲ以可召抱、
申上候。代官江相紀之、延置候儀無之候、申上候。向後
十年季外申付候者、当人主人請人迄可為曲事。

一　号養子候而、其判形致候者、本主ハ勿論、
申上候、号又向後停止之旨雖被仰付候事。

一　山林竹木猥ニ伐出来候より、如此田畑荒無用ニ可仕候、
下知事。

一　代官并百姓仕置之義、向後停止候上ハ、百姓中懸候
之儀有之候時ハ、其当人可為曲事。

一　惣而田畑之品ニ而も、見立ニ而も、急度ニ而も相守

出石郡之内中上云百姓ニ右郡之内屋敷安中申
上ニ百姓之外負去者料[illegible]上而紀明之
旨堅申付
以上
右七ケ條此度令旨堅申付之處忘
以紹知之也仍如件

天正十四年
丙戌十二月十八日
奉
一庵
平川
百姓中

代官ゟ年貢遅滞致し候ハヽ。
無異儀申年其時年其元
非分ハ。何様とも可被仰付候。
之上作毛先地主耕作可致候。
一当て取替せしの證文
之様子ゟ作徳田作て可申合
之為後證之念也。仍如件。
何三月廿九日　一唐年中
何川
百姓中

新吹錢為候之
両替屋。江戸
迄之候以
手前之田地横
之節。打候也

之事石高候。儀
以至黒川南也
幸之町。人両替
物田取總田地
三貫之五十文。

支残下知
しきや。仍如
件。
瑞雲院
十二月十五日　周氣

黒川南和町人衆
同　百姓衆
同　〃衆

馬飛正述渡江戸家敷迄上下

て出しけるや。

元和九年亥閏八月十二日

[illegible]

二日五日市村

二日五日市村ハ。南品川宿ノ西ニアリ。江戸日本橋ヨリ行程二里餘。昔ハ市場ニテ。毎月二五ノ日九六次ノ市立シヲ以テ。村名トナレリ。今隣地妙國寺門前ニ。青物市アルハ。其遺風ナリト云。村名元禄ノ改ニ始テ見エタレバ。古ハ品川宿ニ属セシ歟。相傳フ昔ハ千東郷菅苅庄ト唱ヘシト。今郷庄ノ唱ヲ失フ。四隣。東ハ南品川宿。西ハ居木橋村。及北品川ノ内三ツ木。南ハ大井村ニテ。北ハ南北品川宿ナリ。サレド田

地南北品川分ト犬牙シテ。廣狭ヲ記シ難シ。村落ヲナセル處ハ東西三十七間南北三十一間。陸田過半ニ居リ。水田ハ段別四町七段八畝二十四歩。陸田ハ段別七町一段九畝二十六歩。高九十八石九斗三升一合。地ニ高低アリ。土性ハ砂石錯リ。高キ處ハ野土赤土交ハレリ。旱損多キ地ナレド。又大雨アレバ目黒川溢レテ水損ス。品川用水ヲ引沃グ。民戸四十九。品川驛ヘ隔年ニ高九十四石ノ助郷ヲ勤メ。又小役人足一人ヲ年毎ニ同驛ヘ出セリ。驛場ツヾキニテ行客ノ助成アルガ故ナリ。東海寺ヘ夜番人足年ニ二人。及ビ近火ノ時消防ノ人足五人ヲ出シ。又御殿山下炮術稽古小屋場修理ノ人足ヲ出セリ。其餘ノ課役ハ諸村ニ同ジ。古ヘヨリ御料所ニテ。今中村八太夫支配ス。檢地ハ元禄十年織田越前守糺シ。其後ノ新墾ハ享保十七年九月筧播磨守縄入シテ。高一石七斗四升八合ノ高ヲ免。又寶暦十一年四月伊奈半左衛門檢地シテ。二石四斗八合ノ高入アリ。

小名

三竹（ミタケ）　村落ノ所ヲ云。南品川宿三竹稲荷ノ近隣ナレバナリ。

三ツ木臺 村ノ西北ノ方十町ニアリ。南北品川ト入會ノ地ナレバ。カク唱フルナラン。

廣町耕地 村ノ西ノ方ナリ。

株木耕地 北ノ方ナリ。

根河原耕地 西ノ方ナリ。

三竹耕地 北ノ方ナリ。以上四所水田ノ字ニテ。南北品川ト犬牙ノ地ナリ。

石地耕地 南ノ方ナリ。

淺間臺 南界ナリ。

權現臺 前ノ北續ナリ。

苗木原 西界ニアリ。

山崎耕地 是モ西界ナリ。以上五所ハ陸田ノ字ニテ。亦品川ト錯綜ス。

山川

林 小名苗木原。三ツ木臺。三竹。根河原。權現臺ノ五所ニ散在ス。南北品川分モ犬牙シ。村分四段二畝二十二歩。村民ノ持ナリ。

清水二 一ハ三竹耕地ノ山裾ニアリ。字神平清水ト唱フ。一ハ苗木原ノ山下ニアリ。共ニ共邊ノ用

水トス。

墳墓

行人塚　小名三ッ木臺ニアリ。高四尺見捨地ナリ。所以ヲシラズ。

新編武藏風土記卷之五十三終

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan